

平成29年度第1回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎招集年月日 平成29年 5月31日(水)
- ◎開催日時 平成29年 6月20日(火) 午前10時～10時55分
- ◎場所 伊那市役所 庁議室
- ◎出席者 白鳥市長、松田教育委員長、宮脇教育委員長職務代理者、田畑教育委員、原田教育委員
- ◎欠席者 なし
- ◎出席職員 北原教育長、大住教育次長、吉田学校教育課長、小松生涯学習課長、捧文化振興課長、宮下スポーツ振興課長、中村指導主事、唐木指導主事、山崎教育総務係長

1 開 会

大住教育次長

皆さん、おはようございます。定刻となりましたので、ただ今から伊那市総合教育会議を始めまいります。なお、本日、市長が急遽、長野の方に出張になりましたので、1時間の会議になります。それでは、初めに白鳥市長からごあいさつをお願いいたします。

2 市長あいさつ

白鳥市長

おはようございます。総合教育会議ということで、前々から計画させてもらっていたんですが、長野県の消防防災航空隊の防災ヘリの墜落事故によって大変な状況になっているなかで、消防航空隊のあり方の検討委員会の委員に急遽指名されまして、長野で会議があるということで、会議を短縮させていただきますので、申し訳ありませんけれどもご了承いただきたいと思います。

昨日も火事がありまして、あれが山であれば、乾燥している状況の中で、本当に手に負えない状況になるところであります。防災ヘリがあることによって今まで助かってきたものが、ない状態がこれから数年間続くということで、地方自治を預かる私たちにしてみると心配の種であります。山岳遭難であれば、まだ、警察の救助がありますけれど、山火事とか大規模災害の時には防災ヘリがないとどうしようもないということでもありますので、ご理解いただければと思います。大変乾燥していて水のない状態が続いていて、地域によっては田んぼの水が枯れているというようなこともニュースで聞きます。この伊那では今のところ心配ないわけではありますが、美和ダムの貯水率も80%強ということで、まだ、心配には至らないんですが、下流域の愛知県の方では取水制限が出だすという話もあります。この地域は本当に2つのアルプスがあって水がふんだんに生み出されているということに感謝するとともに、先達たちが引いてくれた灌漑用水によって水が安定的に賄えるということでもあります。教育についても同じように、綿々と続く子どもたちへの教育の方針がぶれることなく続いていくことが極めて重要でありますし、そうしたことを議論する場でもありますので、短い時間ではありますが、是非とも活発な議論をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

大住教育次長

ありがとうございました。続いて、松田教育委員長、お願いいたします。

3 教育委員長あいさつ

松田教育委員長

今日は、1時間という短い時間でありますけれど、今年度の教育委員会の運営方針等、重要な協議事項がありますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

大住教育次長

それでは、協議事項に入ります。進行は白鳥市長にお願ひいたします。

4 協議事項

(1) 平成29年度伊那市教育委員会運営方針について

白鳥市長

まず、教育委員会運営方針についてを議題といたしますので、説明をお願いします。

資料NO. 1に基づき、松田教育委員長説明

白鳥市長

教育委員会の中でいろんな意見を出し合って案としてまとめられた方針でありますけれど、このことについて何かご意見があればお願ひしたいと思ひますが、どうでしょうか。

白鳥市長

裏面の生涯学習の中で、中尾歌舞伎、高遠ばやしとありますけれど、これ、是非、北村監督の作った、非常にレベルの高い故郷の映像というものがありますので、これを使ってもらおうと、実際に踊ってもらったものを見るのもいいですし、一度に学ぶことができると思ひますので、あれ、持っているよね。

小松生涯学習課長

あると思ひます。

白鳥市長

それを参考にしてもらえばいい。あと、藝大ともいろんな事業が展開されてきているので、今まで音楽中心だったものが、音楽がさらに広がっているのと美術関係ですね、美術関係も幅が広いので、文化とか芸術が日常的に身近にあるという、しかも本物の芸術ということが非常に大事ですので、そのことを教育現場でも展開していってもらえればと思ひます。

松田教育委員長

三義で藝大の先生がやっていますよね。あまり知られていないけれど、ああいうの

も発信していけばいいよね。

大住教育次長

天野さん、相談役の方ですね。

白鳥市長

あと、スポーツ振興では、今年度一旦予算を盛ったけれど、取り下げる屋内練習場は、将来に渡ってどういうものがあるのか、少し研究してもらおうと、特に自分たちだけで考えるとろくなことにならないので、よその事例だとか、予算も含めて、使い勝手も含めて、使う皆さんたちも一緒になって考えていくようにやっていくべきかと、そこもやっていってもらいたいと思います。

白鳥市長

あと、アーカイブはどうだっけ。

捧文化振興課長

伊那町の方ということで、今、声を掛けているのは、伊那ビデオクラブの会長さん、前会長さん、それから、会員のみなさんにも声を掛けて、古い写真や8ミリフィルムの情報もありますので、出していただいて進めていくということで、近々お会いしてやっていこうと思っています。

白鳥市長

具体的にはいつごろからやっていくのか、もう、今年度から始めていかないと随分時間が経っているので、これを強力に進めていってください。

捧文化振興課長

はい。

白鳥市長

I C T教育のなかで、プロジェクター、あれは今回何校に入るの。

吉田学校教育課長

5校です。

白鳥市長

5校で、何台？

吉田学校教育課長

34台だったと思います。

白鳥市長

来年度も計画するんでしょう。

吉田学校教育課長

今年度の成果、効果を確認しながら、どういうふうに入れていくのかを今後検討していきます。

白鳥市長

はい。あと、西箕輪中学校で今、やっている Google、一回視察するように日程調整してください。

吉田学校教育課長

わかりました。Google 自体を使ってということをやっていないようなので。

白鳥市長

どのような使い方をしていたのかとか、それから後の展開でもいいし。

吉田学校教育課長

はい、その辺の説明ができるように、また、見ていただくように調整します。

白鳥市長

現場でどのような ICT 教育の広がりがあるか見てみたい。

吉田学校教育課長

はい。

白鳥市長

どうでしょうか。特になければ、この方針で進めるということでもよろしいでしょうか。

全委員（なし）

白鳥市長

それでは、今年度の教育委員会の運営方針については、これをベースに進めるということをお願いしたいと思います。

（２）伊那市のキャリア教育に求めるもの

白鳥市長

次にキャリア教育についてお願いします。

資料NO. 2に基づき、吉田学校教育課長説明

白鳥市長

キャリア教育を上伊那全体で始めて、第一弾が伊那中学校だったんですが、今年は駒ヶ根市の東中学校ということで動いていますが、その効果は非常に大きいものがあるということで、伊那市では独自に市内の中学校で毎年やれるようにしていこうとい

うことで、参加する企業のみなさんは二度手間になる可能性もあるんですけど、駒ヶ根の場合には駒ヶ根を中心にやってもらえればいいですし、そうしたことで、子どもたちに地域にどんな仕事があり、あるいはどんな人がいるのかということも学んでもらう本当にいい機会だと思いますので、そうしたことについては、意味とか意義というものを子どもたちに伝えつつ進めていきたいと、前回、親にもという話があったけれど、そこら辺は今回どうなっていますか。

吉田学校教育課長

はい、資料のヒューマンブースの中のおやじブースというものがあるんですけど、ここには実際に保護者の方が参加して出していくというものがありますし、それからビジネスブースの中にも一番左側の列の上から3つ目のアーク美容室さん、これも保護者の方と聞いておりますので、何らかの形で保護者の方も関わってきているようです。

白鳥市長

伊那中の時は保護者の参加はどうだったんですか。

北原教育長

基本的には、学校と企業さんで進めていましたので、当日のお手伝いくらいだと思います。

白鳥市長

そうですね。親が知らないというミスマッチがありがちかなという気がするので、そこを今後どういうふうにしていくのか、まず、子どもたちということであれば、子どもたちに地元の働いている皆さんの後ろ姿を見てもらうとか。

松田教育委員長

7月4日で、開催までまだ時間があるので、授業参観の形にして、来られる方だけでも呼びかけてみたらどうですか。

白鳥市長

できるだけ参加してもらおうような、去年の伊那中に私は行けなかったけれど、副市長の話だと「非常に良かった。」という話だし、参加者も「大人がこんなに生き生きとしている姿に驚いた。」という話があったので、親御さんたちもそうした関わりを持てるような形にしていった方がいいかもしれないね。

北原教育長

今後のあり方を含めてですけど、スペースのこともありますが、できるだけそうした皆さんにも参加していただく形で進めていければと思います。

白鳥市長

先日、春富中とか伊那中の生徒と話をする機会があったけれど、すごいみんな楽しみにしていますね。去年の伊那中で成果が出ているっていうか、結果が良かったので、春富でも今から楽しみにしているという話がありますからね。キャリア教育について

どうでしょうか。意見をいただければと思います。

松田教育委員長

キャリアフェス in 春富中学校のところにリード文があって、そこに書いてありますけれど、伊那市におけるキャリア教育の考え方がきちんとリード文として書かれていた方がいいと思うので、また、検討してもらいたいと思います。運営方針のところに少し書いてあるんですけど、もう少し膨らめて書いた方がいいと思いますので。

白鳥市長

なんでこういうことをするのかということをはかりやすく伝えて、それに基づいていろいろなところで、体験してもらおうと。

松田教育委員長

「暮らしのなかの食」と同じように、大きな伊那市の取り組みとして発信できるように、そういう中身を持っているので、なぜという中身をしっかりとっておいた方がいいと思います。

白鳥市長

この絵はだれが描いたの。

吉田学校教育課長

春富中の生徒さんのようです。

白鳥市長

女の子、何年生？

吉田学校教育課長

2年生と聞いています。

白鳥市長

本物を見てみたいね、どんな色使いなのか。

吉田学校教育課長

ペンで描いてあるようです。

白鳥市長

色は着いていないんだ。

吉田学校教育課長

はい。

白鳥市長

手がとてもたくましいね。

北原教育長

話が少し飛んでしまいますけれど、各中学校から出された今年の伊那まつりのポスターがとても素晴らしい、発想もとられていないと言いますか、見ていて本当に豊かなんですね。最後に、勘太郎さんが月の中にシルエットでいるものが選ばれたんですが、そのほかの作品も本当に素晴らしいです。力が上がっていると思うんですね。そういうなかで先程ありましたけれど、藝大との関わりですけれど、去年、藝大の小松先生という方が全県の美術大会に高遠へ来てくれて、今年から少しずつ学生と伊那市へ入って、音楽と同じように学生さんとカバーしてくださるということで、また、これも楽しみです。

白鳥市長

塩供で農家の古民家を改造して、藝大の学生たち、美術系のみなさんがあそこで制作というかね、を始めるという、古民家の改造から始めるというんだよね。1年を通してか分かりませんが、学生が来てあそこで何かやるというのは、非常に刺激になるでしょうし、そのフィードバックの一環で子どもたちに制作の楽しさとか、いろんなことを教えてもらったりして、まあ、子どもたちがそこに行ったっていいだろうしね。

松田教育委員長

今、教育長さん言われた美術の研究会の時に高遠高校の油絵を描いている子どもたちの姿を見たんですが、ものすごい真剣なんです。なんでああいうふうになるのかと思ったんですが、例えば、消防署の看板を描くとか、要するに自分たちの描いたものが自分たちのところで終わっていないで、外へ発信されている。さっきのポスターもそうですし、そうしたことが子どもたちの自尊心を高めて、ああいう取り組みになっているというふうに思いますね。今度、高遠町のシャッターに絵を描いてもらうということに取り組むようです。

白鳥市長

前に伊那西の生徒に沢渡のステーションに描いてもらった。

北原教育長

今年の石工まんじゅう、これも美術の学習の中で出てきたということです。

白鳥市長

去年だって全国植樹祭のポスターも高遠だったしね。地域と一体となった学校、生徒のあり方みたいところが、希望としては何とか育てほしい。今度のキャリアフェス in 春富中も是非そうしたコアになる部分を確認して進めていくということをお願いしたいと思います。

ほかはどうですかね。田畑委員さん、中心でやってもらっているの。

田畑教育委員

今、市長さんおっしゃいましたけれど、子どもの次に一番大切なのは、親だと思うので、今回、春富中は会場のスペースの都合もあるんですけど、やはり、富県の子どもたちも来ているので、親として関った子どもたちが中学に入ってきている親たちが

らしてみると、意識が高いと思うので、是非見学に来てもらう、オープンにした方がいいのかなと思いますし、今後の展開の中で、子どもがせつかく地元の地域に思いを持ってこんなことをやりたいという意見を出した時に家庭で「いやー伊那にいてもしょうがないぞ。」という話になっちゃうと話が腰から折れてしまうので、やはり親の意識を変えていくことが大事だと思います。

白鳥市長

ひとつは、ビジネスブースで上伊那森林組合がないね。

吉田学校教育課長

沢渡木材さんが入っています。

白鳥市長

ペレットとか、自然エネルギー、再生可能エネルギーには、こうしたところがいいと思います。実際、ペレットを持っていくとか、自然エネルギーに関してのいろいろな取り組みをやっているよね。そこら辺を発信していくとか、森林組合を入れてみてよ。

吉田学校教育課長

はい、当たってみます。

白鳥市長

いいよ。「出てくれって言っていた。」って言えばいいので。狙いは、エネルギー、それから、沢渡木材は実際に山へ入って木を切ったりするんじゃないで、切ったものの加工をするんだね、その前段階で、間伐だとか、一連の山づくりの話とそこから出てくる木材製品の話をも森林組合でしてもらおう。「伊那から減らそうCO²」その辺のところ、パンフレットも市民生活に行けばあるので、そういうのを持って行って説明してもらおうとか、木のおもちゃだっけ下にいっぱいあるので、そうしたものを持って行って展示したっていいよ。子どもたちにいろんなものを知ってもらうチャンスを僕らが提供していかなければいけないよね。キャリア教育についてほかはどうでしょうか。職務代理者はどうですか。

宮脇教育委員長職務代理者

伊那の特徴としてヒューマンブースがあるというのがすごい面白いと思っていて、やはり昔はキャリア教育というと職場体験のようなものが主だったと思うんですが、今、流れが変わってきていて、地域の中で生きていく自分というものが成長していく中に職業があるという考え方なので、そういう意味ではこのヒューマンブースでいろんな大人に出会う機会を持てるというのは、特徴ある取り組みでいいかなと思います。

白鳥市長

ヒューマンブースもまだ追加があればいいと思うので当たってみてください。キャリアフェスについてはよろしいでしょうか。

全委員（なし）

（３）伊那市の文化財について（市史編纂の具体的スケジュール）

白鳥市長

次に文化財についてお願いします。

資料NO. 3に基づき、小松生涯学習課長説明

白鳥市長

この市史の編纂については、やるという方向でお決めいただいて、具体的にどういう方向でやっていくのかということ、まず、委員を選考して次の段階に入っていくということでもあります。今、編纂の方法で、アーカイブとかデータを利用した動画を含めてということでもありますので、これも一つの活用の方法かと思いますが、写真と文字だけで残すということもありますけれど、いろんな民俗的なものについては、音としても残せるだろうし、いろんな立居振舞の手の動きとか、そうしたものがありますので、動画も一つのあり方かなあと 생각합니다。市史の編纂について、例えば、大体何か年でやるとかそうしたことは考えていますか。

小松生涯学習課長

今まで、市史等やってきたなかでは、10年とか20年かかる仕事ですので、ただ、今まで積み重ねてできているものですので、基本となる部分はそんなには変わらない。埋蔵文化財で発掘調査が進んできているとか、上伊那教育会が自然編を作り直すとかいうことで、変わってくることもあると思いますし、自然環境も変わってきていますので、そうしたところで変わってくる分を検討しながら、全部をやった方がいいのかどうかを含めて、一番改編した方がいい部分から始めていくのがいいのではないかと考えています。

白鳥市長

前回何年でしたっけ、昭和54年、55年？

小松生涯学習課長

そうですね、昭和50年代から平成にかけてやっている部分もあります。

白鳥市長

30年、40年経っちゃっているね。

小松生涯学習課長

ええ、そうですね。

白鳥市長

その間、いろんなものが大きく変わってきているので、合併もあったり、様々な変化を上手に盛り込んで、今回作れば、また、半世紀ぐらい向こうにいくと思うんだよね。

小松生涯学習課長

そうですね。

白鳥市長

では、市史編纂について意見をいただきたいと思いますが、どうでしょうか。

宮脇教育委員長職務代理者

業者の提案による編纂方法の検討というのがあるんですけど、多分、いろんなところでいろんなことをやっているはずで、その中でいいものが業者さんの中に蓄積されていると思うので、そういうところもうまく取り入れて、残って活用できるものがうまくできていけばいいと思うので、是非業者の意見も聞いていただければと思います。

白鳥市長

業者も気をつけないと1回入ってしまうと「そこへお願いします。」というふうになれ合いになってしまうとだめだからね。

小松生涯学習課長

今のところは提案だけということで、業者がこの間来て、いろいろな提案をさせてほしいと言っておりました。

白鳥市長

あと、古い地名調査をやった後、各地区で区史を作っているところがあるよね。あそこのもも参考になるし、昭和55年以降に作っている区史も随分あると思うんだよね。そういったものも参考にしてもらおうのと、学芸員に自然系の学芸員がいないよね。そこら辺を採用していったらどうなのかね。この市史だけでなく違うところも出てくると思うので、埋蔵文化財だけでなく自然系のもも考えてもらって、まあ、自然系と言ってもいろいろあるけどね。ほかどうですかね。原田委員どうですか。

原田教育委員

今の区史の話なんですけれど、割と民間のもの、農家の昔からのものって区に割と残っていないんですよ。なので、残せるものがあるのならば大事にしていきたいと思います。

田畑教育委員

これは、誰が読むのか、誰に読んでほしいのか、格調高すぎて誰も見ないみたいな形になりがちなので、できたら次の世代の若い人たちが伊那市を深掘りしたいと思った時にそれが通常できるものにしたらいいなと思うので、中身は別に検討されるんでしょうけど、ここにあるデータ化の中で色々な形で引ける、キーワードでも引けるし、逆引きもできたり、事柄引きもできたり、題引きもできたりという形で、それこそ近代史っていうのを学校の中では教えないので、地域史という自分たちの足元の歴史を探ってみようというような授業に活用できるようなデータ化ができると、ICTに乗っかって非常にいい教育資材になるのかという気がして、その辺の落とし込みも頭の中に入れていただけるとありがたいかなと思います。

白鳥市長

もうひとつ参考文献のところに向山雅重先生の名前が出ているんだけど、向山雅重先生の研究が止まっちゃっているの、あそこのところが大事なところだと思うんですね。併せてその研究をパラレルで動かして行って、そこを伊那市史に反映させていくことが同時にできるかなあという気がするんですね、生活史とかね、民俗史とかいったことについては、かなりあそこに多く覚えがあるからね。

松田教育委員長

委員の方を5名選出するようになっていますが、その委員の方たちがどういう考え方を進めていくのかということがとても重要で大事だと思うんですけど、やはり、後世に今を正しく正確に伝えていく、それが編纂史なので、ちょっと田畑委員さんの意見と違って申し訳ないんだけど、そういう何かに使うとかいう働きを捨てて、事実を的確に正確に後世に伝える、そういう精神がないと、ちょっと違ったものになってしまうという気がするんですね。例えば、教育委員会で作った「わたしたちのふるさと」ああいうものは、ああいう形でいいんですけど、こういう正確な学術書なので、正確さを集めていく。

白鳥市長

それが基本でしょうね。50年か40何年前作った時の、例えば、自然史であれば、チョウチョはこういうものがいたんだけど、この時代にはこういうチョウチョしかないとかね、これは事実なので、なぜ減ったのか、変わったのかということ、温暖系のチョウチョが増えているというのも温暖化に背景があるとかね、そうしたものを含めて掲載してほしいね。5人のみなさん、5人がいいのかももう少し必要なのか、もう少し詰めて、そこのところが一番の核になるので、そこを重要視して人選も含めてやっていただきたいと思います。世紀的な取り組みですからね。

宮脇教育委員長職務代理者

多分、両方、きっちりとした事実とそれの引き出しやすさ、両方がうまくできるといいかなと思います。多分、今の技術であればできると思うんです。

白鳥市長

サーバに落としていくことも可能だと思うんだよね。例えば、きんによんによ、長谷地域で昔から踊られていた何々と、踊り方とか分からないよね、それに映像とかをつけて、リンクさせればきんによんによの踊りはこういうものだということが分かるよね。

宮脇教育委員長職務代理者

だから、事実をきっちり記録することも大事ですけど、やはり使えればもっといいなあと思います。

白鳥市長

それがためにもベースがきちんとならないといけないので、そこをまず固めるのと、そこからいろんな派生ができるというのは工夫だと思うんだよね。

白鳥市長

ほかにどうでしょうか。

資料「伊那市無形文化財の現状」に基づき、松田教育委員長説明

白鳥市長

大事な話ですので、うまくいっていると答えたところや後継者がなくて困っているところや、こうしたものが一回消えてしまうと復活することが非常に難しいので、担当の方でも、そこに残して継続していくためにはどうしたらよいかということ、早めに手を打てるような提案をしてもらおうということで、特に、ざんざ節、きんによんによなんかは、高齢化と費用負担の部分で結構課題が多いと思うので、こういうようなところを、長谷の総合支所だとかも含めて、教育委員会も当然関係してくると思うので、一緒に考えて方向を出していくことをお願いしたいと思います。今回、中尾歌舞伎の休止がひとつのきっかけとなって、市内の無形文化財のあり方とか将来の姿を考えるいい機会となったと思いますので、これを逃さないように、それから高遠ばやしも東京藝大が来て、指導してくれるということで、今まで、洋楽中心だったんですけど、やはり三味線だとか鼓だとか胡弓だとかを含めて指導してもらおうということは非常にいいことだと思うので、雅楽においても藝大はトップにいるので、そのところも学びつつ、どうせだったら次の世代のみなさんにも入ってもらって、そこで一緒に学んでももらえれば問題解決のひとつになるのかなあとという気もいたします。この無形文化財の現状についてご意見があればお願いいたします。

北原教育長

子どもたちの関わりですけれども、例えば、高遠ばやしのところに高遠小のクラブ、これが6月から11月まで毎週行われて、灯籠まつりだとか、JAの農協祭であるとか、城下まつりで舞台発表をしているわけですがけれども、一方で、会員確保に苦労しています。それから、一番最後のざんざ節、きんによんによですけれども、下にあるように中学生の総合で、長谷中学校の3分の1の生徒が参加しています。しかし、右にあるように会員の高齢化ということもあって、先程のキャリアにも関係するんですが、キャリア、それから「わたしたちのふるさと」を合わせて、地域に根ざすというところに意識を転換しながら、長く引き継いできたものを、ここで、若手の方がやっていく、こうしたことが大事かなあとと思うので、継続してかなりの子がやっっているんですが、会員になってこないという実態があります。

白鳥市長

ざんざ節のところに三味線の修理等の費用が大変とあるけれど、これ、伊那市の制度でいくらでもあるよね。こういう地域の太鼓修理だとか。

小松生涯学習課長

はい、文化財に指定してあるものについては、基本的に、法被、かつらであるとかを購入する時には、10分の3・500万円を限度に補助制度があります。ただ、指定してなければ、対象になりませんので、その辺のところも検討が必要かとは思いますが。

白鳥市長

そういうことができるような制度に変えればいい。

小松生涯学習課長

補助金の制度の中で、文化財に指定してあるものということがありますけれど、それに準じていると市長が認めたものというのがあります。

白鳥市長

そういうものがあるので、それを使ってこういうところに出してあげればいい。

小松生涯学習課長

そうですね。少しまた検討させていただきます。

白鳥市長

はい。ほかどうですかね。

全委員（なし）

白鳥市長

では、私の方では、以上とさせていただきます。すみません。これで移動しますので、あとはお願いしたいと思います。

大住教育次長

一旦ここで総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。